

平成 26 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(向原地区)

開催日時	平成 26 年 11 月 19 日 (水) 午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	下本村コミュニティセンター	
町民参加者	男 31 人 女 3 人 (40 代以下 0 人、50 代 2 人、60 代以上 32 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、総務防災課長、定住対策室長、参事兼都市整備課長、上下水道課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：広域避難場所としての考え方》

- 去年の防災訓練で自主避難所を開設して、それについて本当にこの場所でよいのかなどの問題点が提出されていると思うが、今年の台風 18 号や 19 号の時には、町はどのような検証結果に基づいて取り組まれたのか。
- 防災マップを見ると、前耕地地区は浸水が想定されることになっているが、例えば、累積雨量がこうなったらこうなるといった記載があれば助かる。
- 東山北 1000 計画で、田畑となっている場所を宅地化する場合は、土地の嵩上げをすることが考えられるので、今は浸水しないとなっている場所も浸水する場所となる可能性もあるので、これらも検討したハザードマップを提供していただきたい。
- 台風 18 号の時、町の指定された 4 箇所以外に向原連合自治会で自主避難場所として向原児童館と下本村コミュニティセンターを指定し、各自治会長も自主避難場所に集まった。実際に避難時以上の大雨となってしまった場合、自治会長が指揮をとれる体制にないと感じた。
- 台風 18 号や 19 号の時には多くの自治体で避難勧告が出て、この近くでは南足柄市でも出た。そして避難勧告対象が何万人という発表がされたのに、実際避難した人は何人とか何十人という程度だった。これが続いてくると、避難勧告が出ても狼少年のようなことに成りかねないのではないか。
- 今は、勧告を出さずに死者が出たことが問題となっている訳で、責任を問われるので行政は早め早めに勧告を出すこともあると思うので、あとは自分の判断で避難するかどうかを決めて自分の命を自分で守ればよいと思う。
- 災害時に、都市部では車での移動を控えることとしているが、山北では皆さん軽四を持っているので、災害時にはこれを最大限利用して避難した方が高齢化社会という面からも安全で

はないか。

○広島の土砂災害では、時間や日を追うごとに行方不明者数が増えていったと感じたが、居住人数のカウントといった情報の共有化は、自治会と町ではどのようにしたらよいか。

○台風 18、19 号の自主避難所設置について、防災無線を 18 時頃自宅で聞いたが少し時間が遅い気がした。勧告ではなく自主避難なので、昼間の 15 時頃には放送して欲しかった。

○大規模災害などでの避難所については、知的障がい者への配慮をぜひお願いしたい。東日本大震災の時の話を聞いたが、知的障がい者が母親とせっかく避難所に避難しても、居場所がないということだった。